

特 集

精神医療体系のなかでの 精神病院の位置づけ

——精神病院の機能とその限界——

第63回日本精神神経学会総会シンポジウム*

□ はじめに □

司会 江 副 勉

時間がまいりましたので、第 21 分科集会を開きたいと思いますが、私から最初にご挨拶いたします。

本日「精神医療体系のなかでの精神病院の位置づけ——精神病院の機能と限界」という主題で、この分科集会がもたれることは、われわれ精神科医の精神医療についての考えかたが、精神医療というものはけつして精神病院のなかだけでは解決できるものではない、という方向にもうすでに考えが一致しているからだと思います。

しかし、頭のなかだけで、この精神医療のありかたを議論することは、そうむずかしくはありませんけれども、現実にはちゃんとした体系ができていない。そういうところで、いまの状況では、何もかも精神病院がひき受けてしまう。仕事を請負うというかたち、そういうふうになりかねない。そして、そのために、病院の本来業務というか、

そういうものにしわ寄せがくるおそれもなきにしもあらず、まあそういうふうなことです。そのようなことで、本日は、精神病院またはこれと関連する総合病院の精神科というものが、現在当面しているいろいろな問題はどのようなものがあるか、ひとつこんにちの時点で展望してみたいと思います。

そして、その解決策ですけれども、それを、病院外の他の社会資源との関連の上に立つて、考えていきたい。そういうふうにも思います。問題の解決が、現在の時点でできれば、これにこしたことはありませんけれども、できなくてもいいと思います。ただ、解決の方向をわれわれの力で見定めていくことができれば、それでこの集会の意義があるのではないかと思います。

そういうふうな考えで司会をしてみたいと思いますが、よろしくご協力をお願いいたします。

では最初に、副司会者の岡田さんから、まずこの分科集会の、いわば問題点というようなところを、お話願います。

写真 左：司 会 江副 勉（松沢病院）
右：副司会 岡田靖雄（松沢病院）



* 第21分科集会，1966年4月7日
於：東京国立教育会館